

協働事業評価シート

部課名	福祉部 生活福祉課	平成29年度
記入団体名	チームひだまり	

予算事業名	協働の推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	生活困難家庭の青少年へ対する学習支援事業「ひだまり塾（Ⅰ期）」	
協働事業の概要	経済的困難のため高額な学習塾に通えない家庭の青少年へ対し学習支援を行う。場所はコミュニティカフェひだまり。小学生の部：10時～11時半、講師は教員OB。中高生の部：19時～21時、講師は大学生。	
協働事業の決算額	160,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成29年6月1日 ～ 平成 29年11月30日	

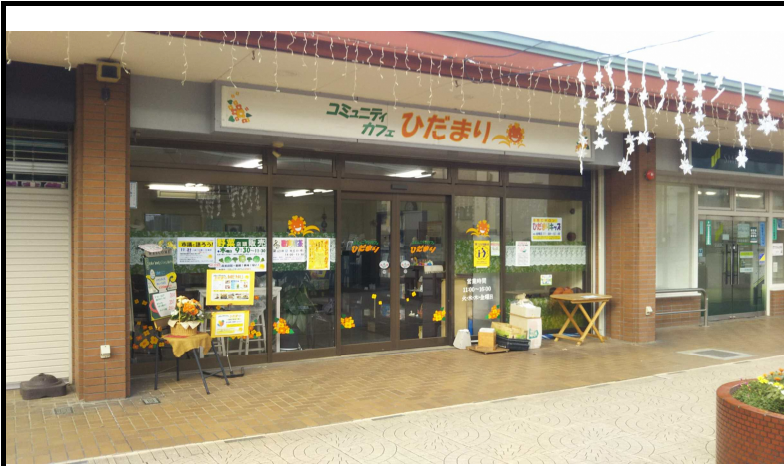
協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	35 点
------	------



ひだまり塾が行われている「コミュニティカフェ ひだまり」

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

今回も昨年引き続き、協働事業として行っている。事業実施の結果として、学習教室やこども食堂を通じて、子どもの学力の向上や居場所づくりは、子どもたちの交流の場となっており、非常に重要なものであるということが分かった。今回、協働事業3年ということで終了となるが、子どもの貧困問題に対して、この協働事業は、決して短期間で成果が出るものではなく、さらに継続して実施していくことが極めて重要であることを改めて認識させられた。また、この協働事業に対し、改めて助成制度が必要であると考えさせられた。

【市民活動団体等】

- 格差が広がり生活困窮家庭の実態はより深刻になっていると感じる。ひだまり塾は要保護・準要保護家庭を無料で受け入れているが、その人数が増え受講料は減額している。一方で学力の差が大きく、1対1で指導しなければ効果が上がらないため講師の数を増やして対応した。
- 市内全体では、かなり多くの子どもが勉強が分からずに困っているのではないかと推察する。
- 「義務教育」の主体は地方自治体にあり。生活困窮者支援ではなく、そもそもの義務教育の質を高めるため学校教育部に本気で立ち上げてほしいと切に願う気持ちは今年度も一層強くなった。
- 一市民団体がこの事業を継続するには、補助率100%の助成がなければ難しい。協働事業3年終了にあたり、来年度は補助率100%の民間助成金を3件申請した（獲得できるかどうかは不明）が、申請書を書きながら、学習支援はやはり本来税金でこそ行う事業であるはずだと強く思った。
- チームひだまりは、生活困難家庭の青少年を地域の仲間として支援する方針を堅持し、100%補助してくれる助成金を渡り歩きながらも、今後も学習支援を継続する。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A	9名	A
B	1名	
C	0名	
D	0名	

【事業に関するコメント】

限られた条件の中で、当初の目的達成のために必要な事業を展開していることに敬意を表します。また、同じ場所で開かれているコミュニティカフェも同様に、この事業は現代の問題に正面から向き合っている点が素晴らしいです。

生活困窮の問題は地域の団体のみで解決できるものではなく、行政と地域が連携し、共に考えながら取り組むべき問題です。今後、行政がどのような施策を打ち出していくかが鍵となりますが、既に関連部署との連携に動き出しているとのこと、この事業を市と協働で行った意義は非常に大きいのではないのでしょうか。今後も行政と連携しながら頑張ってください。

協働事業評価シート

部課名	産業観光部 観光課	平成29年度
記入団体名	川越きもの日実行委員会	

予算事業名	協働の推進	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	川越きもの日事業	
協働事業の概要	川越きもの日実行委員会では、毎月8のつく日を「川越きもの日」として、様々な活動を行っている。 【毎月のイベント】 毎月18日に蓮馨寺にて、無料着付け、染色体験、川越唐棧きもの展示等を開催。昭和のまちとの連携により、昭和のまちによる「手づくり市」も開催している。 【きもの日6周年記念ゆかたファッションショー】 日時 2017年8月18日（金）16:00～18:00 会場 蓮馨寺講堂 内容 一般参加者によるゆかたのファッションショーを開催	
協働事業の決算額	200,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成29年6月 ～ 平成30年2月	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	5	4	4.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	5	3	4
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	3	4	3.5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	4	4.5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	3	3.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	4	4.5

合計点数	29.5 点
------	--------



「きもので初詣」
イベントの様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

実行委員の皆さんの精力的な活動によって、本市にはきもの姿で楽しむ観光客が年々増加していると感じています。また、全国的にも体験型観光が求められている中、「きもので街歩き」は本市の大きな魅力の一つであると考えています。

レンタルきもの店や協賛店も増加していることから、今後は幅広い情報共有及び情報発信を行い、効果的なPRに繋がればより良くなるのではないかと感じました。

【市民活動団体等】

従前から、川越市とともにこの事業を実施してきたが、今回から協働事業としての位置づけが明確になり、より一層事業の推進に邁進することができました。今後も官民一体となった事業の拡大を展開したい。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			評価結果
A	4名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	B
B	5名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	0名	当該事業を協働事業として実施するには課題がある。事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

観光協会や協賛店などの努力によって、まちなかを散策する和服姿の観光客が多く見受けられるようになり、まち歩きと観光施設を結び、川越の観光を盛り上げる目玉の一つとなって地域活性化に寄与していると思います。ぜひとも継続していただくとともに、市民も楽しめるような事業展開を望みます。一方で8月に実施したきものファッションショーにおいては、会場に入りにくい印象を受けましたので、改善をお願いします。

今後も、観光の活性化に関わる団体と連携・協力しながら、事業に取り組んでください。

協働事業評価シート

部課名	産業観光部 観光課	平成29年度
記入団体名	小江戸川越粋な伝統和芸を守り育てる会	

予算事業名	協働の推進	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	小江戸川越粋な伝統和芸を守り育てる会事業	
協働事業の概要	小江戸蔵里・八州亭において、4月から3月まで毎月第二、第四土曜日の夕方に「伝統和芸鑑賞会」を開催。 1月までの状況は、計18回の開催で、観客数が495名（昨年441名）、17団体（昨年14団体）が参加している。 演目内容は、帮間芸、篠笛、箏、日舞、芸妓衆、民謡、尺八、雅楽、三線、巫女舞、三味線、琉球舞踊、かっぽれ、地唄舞等	
協働事業の決算額	200,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成29年6月 ~ 平成30年2月	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	4	4	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	4	3	3.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	3	3.5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	4	4.5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	3	4
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	3	3.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	4	4

合計点数	27 点
------	------



鑑賞会の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

小江戸川越粋な伝統和芸を守り育てる会の皆さんの精力的な活動によって、月2回の鑑賞会も滞りなく開催出来ました。また、昨年度よりも観客が増加したことは喜ばしいことだと思います。人材育成の部分は中々難しいと思いますが、今後は留学生にも目を向け、日本の伝統文化を幅広く発信出来る様、市としても協力していきたいと思っています。

【市民活動団体等】

昨年度に比べ、「伝統和芸鑑賞会」の入場者数が増加してきているので、広報活動や出演者の交渉等の連携を深めていく必要性を感じている。今後は、観光客の集客に向けての周知を定期的を実施していきたい。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A	1名	B
B	7名	
C	2名	
D	0名	

【事業に関するコメント】

当事業における出演者は、その道の熟練者で聴衆を魅了するものであり、伝統の継承という点でもとても意義深いことと思います。

一方で会場となる八州亭の周辺には当事業の案内や、観光客等に対する呼びかけも少ないなど、宣伝や広報の点で課題があると思います。来場者は、外国人・観光客・一般客（市民）と様々であると考えられますが、それぞれの対象ごとにPRの方法を練ってみてはいかがでしょうか。

月2回の開催はかなりの苦勞があると思いますが、ぜひとも継続して頑張ってください。

協働事業評価シート

部課名	保健医療部 食品・環境衛生課	平成29年度
記入団体名	小江戸地域猫の会	

予算事業名	協働の推進	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	地域猫活動推進事業	
協働事業の概要	①2017年7月23日(日)「さくら猫の写真パネル展」開催：小江戸蔵里ギャラリー ②2017年9月23日(土)「飼い主のいない猫のシンポジウム」開催：ウエスタ川越1階多目的ホール ③2017年10月14日・15日「川越祭り」に参加して啓蒙啓発活動 ④川越市飼い主のいない猫の不妊去・勢手術の補助金交付事業の広報ポスター作製・配布 ⑤相談に対応して約180頭の不妊・去勢手術のお手伝い	
協働事業の決算額	56,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成29年6月7日 ~ 平成30年2月4日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた(5点) ・よくできた(4点) ・できた(3点)
 ・あまりできなかった(2点) ・全くできなかった(1点)

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	4	4	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	4	4	4
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	4	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	32.5 点
------	--------



シンポジウムの様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

協働事業は、今年度から始まった「川越市飼い主のいない猫の不妊・去勢手術に係る補助金事業」を後押しするような形になったと感じている。猫の捕獲は、保健所では行えないものなので、小江戸地域猫の会の力を借りられ、市民にも喜ばれていると思う。また、小江戸地域猫の会が行う「さくら猫写真展」「飼い主のいない猫のシンポジウム」の広報について協力でき、小江戸地域猫の会にも喜ばれたと思う。

【市民活動団体等】

市民活動という草の根の小さな活動でしたが、広く市民の皆さんのお悩みへの対応するにはどうしたらよいのかという課題がありました。協働事業として共に活動出来ることで、多くの方に問題解決の方法を知っていただくという目標が現実のものになるのではないかと思います。シンポジウムのアンケートの中で、多くの方がこうした催しをもっとやってほしいと書いてくださいました。私どもの小さな会では難題ですが、こうした事業を活用することで実現も可能ではないかと思っています。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A	5名	A
B	4名	
C	1名	
D	名	

【事業に関するコメント】

「放っておけない」という市民活動の原点から始まった事業であると思いますが、特にシンポジウムでは活動団体・元保健所職員・自治会長の発表があるなど、様々な立場の方を巻き込んで実施されていたのがよかったと思います。単独での事業開催ですと、団体の負担が重くなってしまいますので、他団体と協力して事業を行ったり、イベントのブースに出展することも方法の一つであるかと思っています。中々難しいことではありますが、補助金交付事業の周知にとどまらず、行政でない立場だからこそ、可能なことに手を広げていただければ、協働事業としてさらに良くなると思います。

協働事業評価シート

部課名	産業観光部 観光課	平成29年度
記入団体名	川越サツマイモ商品振興会	

予算事業名	協働の推進	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	紅赤いも120年記念事業～市民へ”紅赤”を伝える！～	
協働事業の概要	川越地方の伝統作物である「紅赤」が2018年に発見120年記念を迎えるに当たり、観光資源として改めてその価値を広く知っていただくために、冊子『イラスト紅赤いも歴史物語』の作成発刊や、紅赤いもに関するセミナーなどを実施する。また、販売イベントに参加すると共に、「紅赤いも解説チラシ」等の作成を行う。 1：冊子『イラスト紅赤いも歴史物語』1000部作成発刊（10/13）配布 2：紅赤に関する試食等のセミナーの開催（12/16川越総合市場 40名） （11/25東京都東新橋 日本いも類研究会に協力 20名） （1/20三芳町多福寺 三芳町に協力 80名） 3：紅赤いも等の販売イベント（12/10 川越産農産物と食のイベントに出店川越産農産物ブランド化連絡会） 4：「紅赤いも解説チラシ」5000部作成発刊	
協働事業の決算額	156,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成29年10月13日 ～ 平成30年2月15日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	4	2	3
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	4	2	3
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	2	3
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	4	4.5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	4	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	5	4.5

合計点数	27 点
------	------



紅赤セミナー
の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

今年は、記念すべき「紅赤いも誕生120年」の前年ということで、市民の方への周知を目的に事業を進めてきました。予定事業数が多い中、川越サツマイモ商品振興会のお声かけによって、連携連絡会議を開催することができ、貴重な意見交換を行うことが出来ました。

来年度はいよいよ記念すべき年を迎えます。皆さんの益々の御活躍に期待しています。

【市民活動団体等】

はじめて提案型協働事業の制度を利用させていただいたが、このような制度がなければ川越市の行政との連携はできなかったと思う。今後は、仕組みの内容を更に改善して成果がより上がるようにしていただければと考える。各審議会はあるが、実践的に活動している団体のメンバーと定期的に意見交換をもった方が、事業効果は上がると思う。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A	0名	B
B	6名	
C	3名	
D	1名	

【事業に関するコメント】

冊子・チラシの作成やセミナーの開催、イベントへの参加など、多岐にわたって広報・情報発信活動をされていたことは素晴らしいです。特に「紅赤いも歴史物語」はイラストと説明がとても見やすく表現されていると思います。

一方で評価シートからは、団体と行政の情報共有・情報交換に課題があったことが見受けられます。来年度が120年記念事業の本番となりますので、積極的な情報共有を行い、より良い事業になるよう取り組んでください。

協働事業評価シート

部課名	学校教育部 学校管理課	平成29年度
記入団体名	自立の家つどい	

予算事業名	協働の推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	東日本被災地へ励ましカードを届ける展示会	
協働事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校管理課を通じ、月例校長会に趣旨説明を行い、各学校へ依頼 ・まつり会館休憩室で観光客に励ましカードの制作を呼びかけ。 ・『励ましカードを届ける展示会』を実施 実施日：12月3日(土)～4日(日) 場 所：ウエスタ川越2階ワークショップ・情報コーナー ・「第6回『国境を越えて心と心をつなぐクリスマスカード』展示会」に参加 実施日：12月24日(土)～28日(水) 場 所：福島市駅前「こむこむ館」2階 <small>※福島の展示終了後には、石巻市内でもカードが展示された。 ・最終的に7,000枚近いカードや葉等が集まった。</small>	
協働事業の決算額		円 ※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成29年7月 ～ 平成30年1月	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	4	5	4.5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	4	4	4
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	5	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	5	4.5

合計点数	31.5 点
------	--------



展示の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

震災から7年という児童生徒にとっては長い月日が経ち、日々の生活で震災の影響を感じることは少ない。そんな中で被災地へ再び心を寄せ、被災地や被災された方々に正しい認識を持つとともに、情操教育やボランティア意識の向上に繋げるという点で、意義のある事業であると考えている。

各学校の参加は半数に満たなかったが、忙しい中、無理のない範囲でよく取り組んでくれた。また、自主的にオリジナルのメッセージカードを作成した学校もあった。

カード等は、東北に確実に届き、メッセージが伝わっていると信じるが、今年度は、先方からの反応もあり、参加した学校にとって実感が伴った取組になったのではないかと考える。

【市民活動団体等】

時を重ねる毎に、被災地へ向けての大切なものは「心のケア」であるということが、数多く報道されています。何度か現地へ赴いて痛切に感じました。金銭の援助は無理でも、それ以上に心に響く支援が出来たと感じています。

カードの受け取り先の反応も知りたいところでしたが、全国から7,000枚余りのカードが届けられていることから、不可能だと思いました。誠意を持って対応して下さいと信じています。

川越での展示会最終日は県内私立高校の学生が無私な気持ちでメッセージを書いてくれました。もう一つ特筆すべきことは、お互いに進路に悩む市内中学3年生の生徒から福島の中学3年生へ「葉」の裏に励ましのメッセージを書いてくれたことです。カードを受け取った方々がたくさん勇気もらったことと思うと、この事業を行ってよかったとつくづく思いました。

これで補助金交付事業としては終了となりますが、引き続き行政との絆を大事にし、被災地の多くの人々との心の交流を長続きさせたいと思います。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A	5名	B
B	5名	
C	0名	
D	0名	

【事業に関するコメント】

今年度は川越と被災地双方の気持ちが伝わったと感じました。被災地から複数のお礼状が届いているようですので、カードを書いた児童・生徒などにぜひとも伝えてください。被災地のことを考える、寄り添う機会があることは、情操教育につながるるとともに、防災意識を高めることになると思います。

これで協働事業補助金を受けての事業は終了となりますが、カードが届いて喜ぶ人たちがいる限り、また震災を忘れないためにも長く継続していただきたいと思えます。

協働事業評価シート

部課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課	平成29年度
記入団体名	尚美学園大学	

予算事業名	協働の推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	里山讃歌音楽祭 KAWAGOE 2017	
協働事業の概要	<p>●吹奏楽と合唱を中心としたコンサートの開催 【日時】平成29年12月23日（土・祝）14:00～16:30【会場】ウエスタ川越大ホール 【出演】尚美ウインド・フィルハーモニー、尚美ヴィヴァルディ合奏団、尚美学園大学合唱団、埼玉県立川越総合高等学校音楽選択生 【曲目】《第1部》高校生と大学生による饗宴：ヴィヴァルディ「2本のトランペットのための協奏曲」（尚美ウインド・フィルハーモニー）、同「グローリア」（尚美ヴィヴァルディ合奏団、尚美学園大学合唱団、埼玉県立川越総合高等学校音楽選択生高大合同合唱）／《第2部》「祭りと音楽」をテーマとしたステージ：ヘルリオーズ「ローマの謝肉祭」、伊藤康英「抒情的「祭」「ぐるりよざ」他（尚美ウインド・フィルハーモニー）</p>	
協働事業の決算額	200,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成29年7月1日 ～ 平成29年12月23日（音楽祭開催当日）	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行政	団 体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前	5	4	4.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	中前	5	4	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	中前	3	3	3
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	3	4	3.5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	3	3	3
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	3	4

合計点数	27.5 点
------	--------



音楽祭の当日の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

プログラムで一緒に練習する学生の様子を公開するなど、高大連携のプロセスが非常に良く伝わって来る音楽祭であった。

一方で、「里山への関心を育む」という目的が弱まっているとも感じた。「川越ファーマーズマーケット」、「川越の美味しいそろいました」等川越の農業や食をテーマとしたイベントも実施されているので、それらとの連携も検討できると良いと感じた。また、三富新田の農業が、日本農業遺産に登録されたことを踏まえ、そのような内容を取り込むことができたら面白いのではないかと感じた。

【市民活動団体等】

- ・提案型協働事業として3年目の実施であったため、これまで反省や課題をふまえ、担当課とも良好な連携関係の下、スムーズな実施・運営ができ大変感謝をしている。

- ・本年度は、残念ながら参加高校は川越総合高校1校のみとなってしまったが、本音楽祭の原点に立ち戻り、練習から本番に至るまでのプロセスを高大で連携・共有し、学生や生徒達の参加意識や主体性を醸成出来たことは大きな成果であった。ソリストが全て現役の大学（院）生であるにも関わらず、高大合同での合唱等、質の高い演奏ができたことに対しては、来場者からの評価も高かった。

- ・しかしながら、参加高校の減少や市民参加が十分に果たせなかったこと、それに伴う来場者の減少については、運営サイドにとって大きな反省・課題として重く受け止めており、今後、広報や動員面での工夫や改善を図っていきたい。

- ・提案型協働事業としては本年で最終年となるが、今後も、川越総合高校との高大連携事業としてできる限り継続し、川越市の文化芸術振興に貢献していきたい。地域づくり推進課、文化芸術振興課の皆様には3年間大変お世話になりありがとうございました。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			評価結果
A	5名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	A
B	1名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	3名	当該事業を協働事業として実施するには課題がある。事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

3年間の協働事業の集大成でありましたが、参加者が減少してしまったことは残念です。しかしながら、高・大連携事業として多くの感動と成果を得たのは事実であり、協働事業として行ったことで得られた課題・反省、それに対する工夫は貴重な財産になったのではないのでしょうか。

こうした音楽祭を継続して行うことは、川越の魅力を高め、他市との差別化につながるものです。地域の文化振興を牽引する、リーダーシップを取るような活動を期待します。

協働事業評価シート

部課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課	平成29年度
記入団体名	川越の文化活動を応援する会	

予算事業名	協働の推進	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	観る朗読「東京タワー」川越スカラ座公演	
協働事業の概要	<p>概要：本事業は朗読公演を通して市民間の交流を図るとともに、会場を本市に残る文化資産「川越スカラ座」で実施することにより、歴史的な建造物の役割や重要性を市内外に周知しようとするものである。</p> <p>＜川越スカラ座公演＞ 日時：平成29年7月18日（火）【昼の部】14：30～ 【夜の部】19：00～ 会場：川越スカラ座 出演：谷 英美 観客数 約240名 ＜公演報告会＞ 日時：平成29年12月17日（日）会場：小江戸蔵里 来場者 約80名</p>	
協働事業の決算額	200,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成29年7月 ～ 平成30年1月	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	4	4	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	5	4	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	3	4	3.5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	4	5	4.5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	3	5	4
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	4	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	3	5	4

合計点数	28.5 点
------	--------



事業当日の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

通常の朗読公演と趣を変え映画館のスクリーンにスライドを映写し、「観る朗読」として公演を進めたこと、会場を川越スカラ座として本市の文化資産の周知も併せて実施したことについては非常に面白い試みであると感じた。朗読のプロによる公演と、報告会での来場者参加型の朗読発表など参加者の満足度も大きかったものと推測される。

しかし、本公演の主目的である川越スカラ座という本市の持つ文化資産の周知等に関しては効果測定の手段がなく、公演の付属物になってしまったのではないかとの見方も持っている。団体の活動に関しては自主性・自立性が感じられ今後も問題なく運営可能だと考える。

【市民活動団体等】

文化芸術振興課や地域づくり推進課の担当者には大変お世話になり本事業を実施出来た。お陰様で川越市と市外からの参観者の方々にも川越スカラ座を知って頂く事が出来ました。そして『東京タワー』の名場面をお届けし家族、人と人との絆等を共に考えることができたのは嬉しいことであつた。機会があれば今後ともこのような事業を通して川越市の貴重な歴史的な建物で文化的な価値のある催し物を実現しさらに多くの方に紹介していきたいと考えています。文化芸術振興課や地域づくり推進課の職員には大変お世話になりありがとうございました。実行委員一同心から感謝しております。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A	0名	B
B	7名	
C	3名	
D	0名	

【事業に関するコメント】

事業の主旨は素晴らしく、多くの来場者があつたことも素晴らしいと思います。市内には多くの朗読サークルがありますが、良い影響を与えたのではないのでしょうか。

一方で事業全般を通じて、スカラ座本体の歴史的な重要性についての情報発信が少なかったことは、事業目的の達成という点で疑問が残ります。事業目的と実施内容が一致していないことが、団体と行政の認識の差につながってしまったのではないのでしょうか。

今後事業を行う際は、こうした点に留意しながら、川越の文化活動を盛り上げていきたいと思っています。

協働事業評価シート

部課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課
記入団体名	無相庵

平成29年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
--

協働事業名称	川越市内小・中学生に向けた茶道体験教室	
協働事業の概要	川越市内の小・中学生を対象とした茶道教室を開催し、茶道を通して礼儀作法を身に付け、相手への心配りやおもてなしを知る機会を提供する事業である。 (茶道体験教室) 日時 8月20日、9月30日、10月7日、11月19日、12月17日 ※各日午前(10時~12時30分)・午後(13時30分~16時)の二部制 場所 ウェスタ川越 対象 小学4年生~中学3年生まで※親子で参加の場合、小学1年生まで可 (茶会) 日時 11月23日 場所 東京国立博物館(九条館) 対象 茶道体験教室に受講した者及びその家族等	
協働事業の決算額	117,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成29年8月20日 ~ 平成29年12月17日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた(5点) ・よくできた(4点) ・できた(3点)
・あまりできなかった(2点) ・全くできなかった(1点)

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	4	4	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	4	4	4
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	3	4	3.5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	3	4	3.5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	4	4	4
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	5	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	3	5	4

合計点数	27.5 点
------	--------



茶道教室の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

団体が小・中学生に対し、お辞儀や挨拶等の礼儀作法及び茶道に関することについて、実践しながら丁寧に指導している様子が見受けられ、受講した小・中学生にとっては、茶道を通して、相手への心配りやおもてなしを学ぶ貴重な経験になったと思う。

本事業の実施について、やってよかったと感じる一方で、当初、団体が要望していた川越市内小・中学校での茶道体験教室が実施できていたら、より良かったと改めて感じる。

今後、団体の要望があれば、それに向けた支援・調整を行っていきたいと考えている。

【市民活動団体等】

広報掲載・電子媒体での情報発信をして頂いた事で、より多くの市内小中学生に茶道体験教室が実施されることを知って頂けたと思います。このことにより茶道に興味関心を持ち一人でも多くの小中学生に茶道体験に参加していただくことができました。参加者には茶室の空間の中でお点前やお茶を体験し、日本の伝統文化に触れ、何かを感じて頂いたのではないかと思います。今回の経験が家族間のコミュニティの一助になれば幸いです。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A	0名	C
B	3名	
C	7名	
D	0名	

【事業に関するコメント】

礼儀作法を小・中学生に伝えることは、この時代において大きな意義があると思います。例えば、両親・祖父母の世代も参加できるような事業になれば、多世代交流の場にもなるのではないのでしょうか。

一方で、「協働事業」として行う意義があまり感じられませんでした。実施場所や参加人数などの事業形式を検討したうえで、地域に根差した形で実施することが、今後の活動の拡大や当初の目的の達成につながると思います。

協働事業評価シート

部課名	市民部 地域づくり推進課	平成29年度
記入団体名	川越igoまち倶楽部	

予算事業名	協働の推進	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	地域づくりハンドブック「川越igoまちBOOK」作成事業	
協働事業の概要	川越igoまち倶楽部は、設立以来「囲碁」をテーマとし、囲碁の参加体験型事業を通じ、次世代育成・観光振興・多世代交流などにつながる地域づくりを推進している。その考え方や事業運営の手法が近年注目され、視察や問い合わせが相次いでいる。そこで、地域づくりの手法を点から線・面へと水平展開することを目指し、川越igoまち倶楽部のエッセンスをわかりやすくまとめたハンドブックを200部作成し、市内公共施設を中心に配布した。	
協働事業の決算額	161,000円	円 ※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成29年 6月 8日 ~ 平成29年12月22日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	中前・中	5	4	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	中	4	4	4
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	33.5 点
------	--------



完成した小冊子の表紙

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

活動団体は市内を中心に例年大きな事業を行っている団体ですので、事業の進行自体については全く心配しておりませんでした。ハンドブック作成にあたって、

- ①内容が提案団体の宣伝に特化しないこと。
- ②行政と一緒に刊行することで、活動団体の自主性・独自性が損なわれてしまう、また内容や表現が固くなってしまうこと。

以上2点に注意しながら事業を進めました。結果としては、綿密な打合せを重ねることで、非常に洗練された読みやすい冊子が完成したと感じております。

また、この冊子を契機に市内だけでなく市外からも、問い合わせや視察の話が来ていると聞いておりとても喜ばしく思っております。この冊子を契機により当団体の活動、ひいては市内の市民活動の活性化につながっていくことを望んでいます。

【市民活動団体等】

- ・担当課には、当会の考え方を良く理解いただき、記載内容なども最大限尊重していただいたことに感謝している。
- ・「協働事業のあるべき形」を具現化できたのではないかとの思いを持っている。
- ・会内においても、ハンドブックで、事業の考え方やこだわりなどが「見える化」されたため、改めて思いを共有する機会となり、さらなる自信と活力喚起につながっている。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			評価結果
A	6名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	A
B	4名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	0名	当該事業を協働事業として実施するには課題がある。事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

これまでの活動の集大成として、とても見やすい冊子が完成したと思います。囲碁（ツール）を利用したまちづくりの手法は、他のツールでも応用できそうでユニークですし、三世代（多世代）交流や子どもたちの居場所作りといった点でも効果的な事業ではないでしょうか。

本冊子の表紙のタイトルである「地域づくり」に、この冊子や貴団体の活動が結びつくことを期待します。今後も頑張ってください。

協働事業評価シート

部課名	文化スポーツ部 国際文化交流課	平成29年度
記入団体名	埼玉県在住タイ人クラブ	

予算事業名	協働の推進	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	川越市に於ける日タイ修好130周年記念国際文化事業	
協働事業の概要	平成29年10月8日に名細市民センターにおいて行った日タイ修好130周年を祝う国際文化交流事業。 川越市長、在京タイ王国大使館公使参事官からの祝辞のほか、タイ舞踊、津軽三味線、空手道演舞、ムエタイ、前国王に捧げる舞踊などの両国芸術の披露、タイの食、カーピング、タイマッサージ、茶道、機織り体験等を通して文化交流を行った。 参加団体数:11、参加人数:204名、一般来場者数227名（記帳から把握できた人数）	
協働事業の決算額	200,000円	円 ※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成29年6月7日 ~ 平成29年10月8日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	4	3	3.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	4	4	4
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	5	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	32 点
------	------



事業当日の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

屋外でのパフォーマンスが計画されていたので天気が心配でしたが、当日は晴天で計画通り実施することができました。言葉の違いなどからお互い誤解が生じないように慎重に打ち合わせをする必要がありました。以前から様々なイベントを開催している経験豊富な団体なので内容も充実しており、外国の文化に興味をもっている市民が気軽に立ち寄れるイベントになったと思います。

【市民活動団体等】

協働事業は初めてでしたが、当クラブの提案事業が協働事業に採択されたことで、タイ人、日本人を問わず当クラブメンバーの事業成功への意識が高まったことは事実です。その気持ちが、市外・県外のタイ人にも伝わり、川越市の枠を越えて多くの参加・協力者を得ることにつながりました。

同時に、在京タイ大使館にも川越市と川越在住タイ人と日本人が協力して事業を計画している様子が伝わり、事業当日は公使2名、書記官1名の出席を得ました。このことは、私たちの活動に対しての自信にもなりました。

本事業を通じて、川越市の国際性が関係諸方向に伝わり、2020年のオリンピック東京大会に向けてのPRにもなったと思います。

日本とタイの修好記念は10年（または5年）に一度ですが、今回川越市との協働事業として開催できましたことに感謝申し上げます。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			評価結果
A	4名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	B
B	6名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	0名	当該事業を協働事業として実施するには課題がある。事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

外国人観光客・居住者が増加する中、市民が異文化に触れるイベントとして大変良いと思います。大使館の協力を得るなど、市の枠を超えた連携によって、イベントの国際性が高まっており、訪れた一般参加者も気軽に異文化交流を楽しめたのではないのでしょうか。

このような市内に在住する外国人等との身近な交流事業が継続されることは、地域やまちの活性化に結び付くものと考えます。今後もイベントの大小を問わず、市民へのアピールに力を入れながら、異文化共生・交流事業を開催されることを望みます。